

活動履歴と今後の予定

10/7 熊ビル入居者交流会

10/15 錦町東住宅役員会

10/17 錦町住宅1号棟行政協議支援

10/21 あすと長町第三みのり会打ち合わせ

10/24 塩竈市被災者見守り・相談支援調整会議

10/28 錦町住宅1号棟発起人会

10/30 北浜住宅役員会

11/12 都市計画学会にてインクルーシブな遊び場論文発表

盛岡市青山アパート視察

11/14 錦町住宅1号棟発起人会

11/16 つなセン第3回理事会

11/19 錦町東住宅役員会

11/25 錦町住宅1号棟発起人会

12/11 北浜住宅役員会

12/19 長町エリア空き家調査

Wi-Fi サロン

2ヶ所で開催中！

<つながりキー@あすと第二>

開催日：毎週金曜13:30～15:00

※12/30、1/6は年末年始のためお休みです。

場所：あすと長町第二市営住宅集会所（太白区長町6-5-13）

参加費：大人100円、高校生以下無料

主催：就労移行支援Rickyクルーズ、つなセン 協力：あすと第二市営住宅住民の会

<田子西スマホ講座>

開催日時：毎月第二土曜13:30～15:00

場所：田子西住宅集会所（宮城野区田子西1-11）

参加費：無料

主催：田子西町内会

協力：つなセン、東北学院大学災害ボランティアステーション、
東北大学課外・ボランティア活動支援センターお気軽に
ご参加
ください！

会員数
正会員 賛助会員
19 26
(-1) (-2)

f facebook
いいね!数
614
(+3)

2023年12月1日 現在(前号比)

入会のご案内／寄付のお願い

つなセンでは、あすと長町から始まり広がった復興コミュニティデザインの経験を、東日本大震災の被災地や熊本など他地域へ伝えるべく、活動しています。民間非営利の立場で、卒にとらわれずに機動的に活動を続けていくためには、皆様からの会費や寄付が大きな支えとなります。会員として、又は寄付を通じて、ぜひ応援をお願いいたします。賛助会費及び寄付金は寄付金控除の対象となります。会員登録みやご寄付は、ネットからもお手続きいただけます。 <https://tsunacen.thebase.in/>



継続的に応援するには

正会員又は賛助会員にご入会ください。
・正会員：年間6,000円・総会議決権あり
・賛助会員：年間3,000円・総会議決権なし

寄付のお振込先

<口座名義> 特定非営利活動法人つながりデザインセンター
●郵便振替：02230-8-121908
●郵便振込：ゆうちょ銀行 二二九支店（ニニキュウ） 当座預金 0121908

会員団体のみなさま

般社団法人入居サポートセンター・みやぎ SD不動産 NPO都市住宅とまちづくり研究会
NPO法人東日本ネットワーク手にぎり隊 NPO法人 みやぎ「こうでねい」
株式会社ミツイ 共立女子大学 高橋研究室 CASEまちづくり研究所 高齢者配食サービス「ほっと亭」 今野不動産株式会社
社会福祉法人ライフの学校 スタジオまめちようだい 仙台白百合女子大学 佐々木研究室
仙台南健康友の会 つばさ薬局長町店 東北工業大学 新井研究室 東北工業大学 谷本研究室
長崎大学 安武研究室 宮城厚生協会長町病院 有限会社栗駒建業

役員名簿

代表：薄田 榮一
副代表：新井 信幸
理事：松原 久
理事：マリ エリザベス
理事：松村 翔子
理事：宮本 愛
理事：田澤 紘子
監事：金沢 和樹
監事：佐々木 裕子

編集後記

日本には846万戸、13.6%(2018年)の空家があると言われています。仙台市内では11.1%、それぞれ7～9軒に1軒が空家ということになりますが、そこまでの実感はありませんでしょうか。これはあくまで統計情報から算出された数字であるため、仙台市では30地区をサンプリングして目視調査を実施した結果、空家は5.7%だったそうです。とはいえ、人口減少とともに空家は確実に増加していくので、まちづくりとしてどう対応していくのか、つなセンとしても知恵を絞っていきたいと思います。(新井)

認定NPO法人

つながりデザインセンター

〒983-0841 仙台市宮城野区原町五丁目5番35号 熊谷ビル205

TEL 080-3205-5177
MAIL asuto@tsuna-cen.com
WEB www.tsuna-cen.com

29
2023.12つなセン
TSUNAGARI Design Center
NEWS

HAT 神戸・灘の浜地区の災害公営住宅視察の様子

都市部の「支え合い」を学ぶに

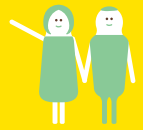
神戸・災害公営住宅の視察
熊ビル入居者交流会兼新井研歓迎会
『ソトコト』で紹介されました！
シェアハウス開設5周年
北浜住宅（塩竈市）の近況
【団体紹介】東北大学SCRUM

活動報告

Main Topic

神戸・

災害公営住宅の視察



1 HAT神戸・なぎさふれあいのまち協議会

9月11日、前号でご案内した科研費（公営住宅の地域資源を活かした新たな地域運営）研究会の一環で、阪神淡路大震災後に建設された災害（復興）公営住宅の視察に、理事3名（新井、宮本、松原）で参加してきました。訪問先はHAT神戸・灘の浜地区という神戸の中心地（三宮）から公共交通で15分程度に位置し、895戸の災害公営住宅（県営・市営）に加え、UR賃貸1020戸、分譲マンション1254戸が一体となった高層マンション群です。そして、この一帯で孤立を防ぐまちづくりを展開し、なぎさ地



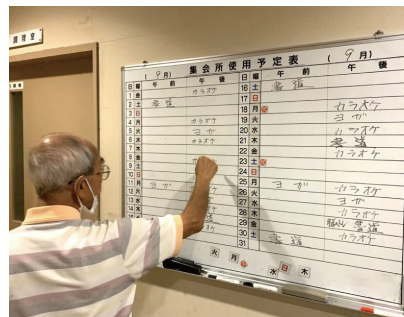
▲なぎさふれあいのまち協議会の皆さんとの情報交換の様子（左端：門協委員長）

域福祉センター（集会施設）を運営する「なぎさふれあいのまち協議会」（門脇龍三委員長）のみなさんに、震災から28年が経過して高齢化が顕著になった災害公営住宅のコミュニティや孤立の現状、集会所の利用実態等について、いろいろとお話をお聞きすることができました。

3棟285戸の県営住宅では、棟ごとに存在していた自治会がすでに2つ解散している様子を残る1棟の自治会長さん（80代）から説明いただきました。3棟610戸の市営住宅のほうは、全ての自治会が解散しており、そこにお住まいの女性（70代）からは、「解散の際は揉めることもなく自然消滅に近いかった。揉める方がまだましで、揉めるほど地域や近隣住民に関心がある人がいない。」といった話がありました。

令和5年 わいわい便り							9月号	
日	月	火	水	木	金	土		
お盆 お盆					1 金曜日	2 土曜日		
3	4 金曜日 お盆 							

▲予定でぎしりのなぎさ地域福祉センターの月刊カレンダー（9月分）



▲県営住宅集会所の管理は担い手不足が課題に

2 利用は好調な集会所

同エリアには「なぎさ地域福祉センター」に加え、県営・市営住宅、それぞれ1カ所ずつの集会所の存在が確認できました。同センター（半日1500円）はほぼ毎日数グループの利用があり、県営（半日1000円）のほうは、定期利用のカラオケ、ヨガ、書道の活動で平日午後はほぼ埋まっている状態でした。市営住宅は自治会が存在しないため、しばらく利用が休止されていましたが、最近、外部団体に管理委託し、その団体がバザー等のイベントで利用しているようでした。集会所の利用は全体的には活発でしたが、同協議会がセンターの管理運営を継続していくのは難しいとおっしゃっていたように、集会所を住民ベースで管理運営していく仕組みには少し工夫が必要だと感じました。

3 神戸と仙台の住民同士の意見交換へ

コミュニティと孤立の状況について、門協委員長がしきりにおっしゃっていたのは、住民同士の関わりが希薄であるということでした。また同協議会の会員で、分譲マンション住民らにより構成されるNPOが同エリアの独居高齢者のサポートを行っているということでした。このように、ソーシャルミックスが形成されていることが灘の浜地区の特徴で、そうしたことが一定の相互扶助を保っている要因であるように感じました。今後はオンラインを活用しながら、神戸と仙台的災害公営住宅に関わる住民（自治会やNPO等）同士の意見交換の場を設けられたらと思っています。



▲今回の視察は山地久美子さん（神戸大学／前列左端）にアテンドいただきました

団体紹介
No.29

東北大学SCRUM



東北大学SCRUMは、大学に設置された課外・ボランティア活動支援センターの学生スタッフとして、メンバー自身がボランティア活動に従事するとともに、災害・社会課題についての学びあいや発信、ボランティアの「輪」を広げる場づくり等を推進する組織です。

発足のきっかけは、東日本震災でした。当初のスローガンは「一人でも多くの学生を被災地に」で、岩手県陸前高田市、宮城県石巻市、福島県いわき市などを拠点に、被災の現実や復興課題の学習、仮設住宅等での活動を組み合わせたボランティアツアーを定期的に開催してきました。現在は、町内会や支援団体等と連携しながら、仙台市内での活動（荒井東、田子西等）にも関わっています。

ボランティア活動は、地域の皆さんに笑顔や活力を提供するとともに、参加した学生にとっての居場所や成長・学びの機会にもなりうるものです。学生との新たな出会いに関心のある皆さんは、ぜひ一度お声かけください。

〈東北大学SCRUM X(旧Twitter)〉https://twitter.com/TOHOKU_VOL

Topics

熊ビル入居者交流会兼新井研歓迎会

10月上旬、新井研（東北工大）に新たに配属された3年生の歓迎会を兼ねた熊ビル入居者交流会がつなセン事務所で開催され、入居犬1匹含む30名近くが集まりました。そして、若者たちの熱気で、4階建てのビル全体が少し温まったような気がしました。

またこの日は、熊ビルの各入居者のアトリエやお住まいを探访するツアーも行われ、セルフリノベーションされた個性的な空間に学生さんたちも興味津々の様子でした。



『ソトコト』で紹介されました！

『ソトコト』（1999年創刊）は、「社会や環境がよくなって、そしておもしろい」をテーマとした、未来をつくるSDGsマガジンで、これまで「スローフード」、「ロハス」、「ソーシャル」、「ローカル」、「関係人口」、「SDGs」など、時代に合わせて社会をリードするさまざまなキーワードを発信しています。今回、そのような時代を先取りした情報発信を行なう雑誌で、つなセンの活動を紹介いただいたこと、とてもうれしく思っています！ご関心のある方は、ぜひご購読をお願いします。
〈ソトコトオンライン〉<https://sotokoto-online.jp/>



シェアハウス開設5周年

シェアハウス長町南は、2019年1月に最初の入居者を迎えてからもうじき丸5年を迎えます。コロナ禍を経ながらも、徐々に運営も軌道にのり、今年は初の満室を達成、そしてめでたく初期改修費の借入金を完済しました。当初は5年間を目途としていましたが、家主さんと契約延長の話がまとまり、もうしばらく運営を継続



できることになりました。今年後半からは問い合わせが増加し、シェアハウスを選択肢として考える若い人たちが増えている感触があります。引き続き、交流を育む場の一つとして運営を続けていきます。

北浜住宅（塩竈市）の近況

2017年の入居開始後、つなセンで住宅会の立ち上げ等を支援し、現在ではアドバイザーとして役員会へ参加しています。最近、独居の方が住宅内で倒れたことをきっかけに、緊急時に備えて住宅会でも何かできないか、との問題提起がありました。話し合いの結果、緊急連絡先を記入できるシールを各戸へ配布し、住戸内に見える場所にそれぞれ貼ってもらうという形が検討されています。そうすれば、助けに入った方が誰に連絡すべきか直ぐに分かるからです。自分たちができることを考え、無理のない範囲で取り組んでいく、といった実践が行われています。

